



TITLE:

<雑録> 地理の書のことなど

AUTHOR(S):

湯浅, 元禎

CITATION:

湯浅, 元禎. <雑録> 地理の書のことなど. 東洋史研究 1942, 7(2-3): 185-185

ISSUE DATE:

1942-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/138821>

RIGHT:

地理の書のことなど

○山海經には宋の頃よりや圖はなくなりたり。これは圖あれば子どもらしきと思ふ理窟あひより除きたると覺ゆ。然れども圖がをものなり。淵明が詩にも山海の圖をよむと云ふ題あり。晝は張僧繇が書きたると云ふこと、何やらんにありと覺ゆ。文は其圖のことわり書きなり。文字いかにも古ていにて賞翫すべきなり。

○鄒道元水經の注、殊の外によりき物にて、記などをつくるに益あるものなり、と「太宰」春臺殊の外に賞美ありし、と

○山崎君修の話なり。

○華夏といひ中華といふこと、日本人のかるくしく云ふべきことにあらず。それは日本を次にしたる詞なり。それゆへ「服部」南郭の文には、たま／＼に華と書きたれども、大かたは華と書かず。海外など書きてをけり。天の立つる所大單于と、漢におくれる書に書きたるは、誠に一見識あることなり。日本にてもその如く心得べきことなり。……

(湯淺元禎「文會雜記」より)